淀川水系流域委員会
第 28 回猪名川部会（H17.9.11）
報告資料２

第 45 回委員会 報告資料２
住民と委員との意見交換会の実施報告
（余野川ダム）の修正について

村上興正委員

住民と委員との意見交換会（余野川ダム）

日　時：平成 17 年 8 月 18 日（木）15:00～18:30
場　所：池田市民文化会館　２階　コンベンションルーム
出席者：進行役　　村上(興正)委員、谷内委員
　　意見発表者　酒井精治氏、増田京子氏
　　代表委員　　池淵委員・澤井委員・高田委員

意見交換会の結果概要
余野川ダム建設に関して、以下のような意見があった。

止々呂美地区住民の意見： 1977 年以来、国土交通省は余野川ダムを地域開発と結びつけその必要性を説き、一方箕面市は民間開発より公共による開発の方が望ましいとして民間開発を止めるなど、地元の意見を無視して余野川ダム建設を決定した経過がある。ダムができると言うことで、地元では何度も被災しているのにその対策は後回しになり、27 年にわたり地元が犠牲になってきた。それにも拘わらず、6 月 30 日に、国土交通省からダムを当面実施しないという一方的な通告があり、それに対して悲しみと不信感をいだいた。撤回して、ダム建設を再開してほしい。

これに対する意見としては、地元住民の方が言われることはもっともな点がある。しかし、大阪府の太田知事が述べているように公共事業の見直しは時代の趨勢であり、ダム建設の見直しはやむを得ない面がある。人命や財産を守るのはダムだけではなく、河川行政全体を変えないといけない、との主旨の発言。また、流域委員会は、答申を行うに当たり、民主的なしくみを保障したと評価しているが、地元の方との話し合いは、まだ不十分だったと指摘された。

総合討論を含めて論議された主な問題は、流域委員会のあり方に関してで、従来の取り組みに関しては、淀川流域委員会のメンバーは余野川ダム予定地の現場を見たのか、実態を知った上で意見を述べているのか。また、地元住民の意見を聞いたことがあるのか、止々呂美地区の意見を述べるのはこれが初めてであり、感謝はするが遅すぎるのではないか、などなどである。

以上の意見に対して、流域委員会は現場の視察を度々行い、地元住民との話し合いもできる範囲で行ってきたことを説明。しかし、これに対しては、従来の結果を見る限り、住民の意見の反映は極めて不十分であり、何の目的で委員会が話し合いを行うのかは疑問である。という厳しい意見が続出した。

また今後のことに関しては、このような形で意見を聞き置くだけに終われば意味がない。地元の事情を聞いた上でそれを反映させた形で意志決定すべきである。として、国土交通省に対して住民の意見を踏まえて答申を提出して欲しいという意見が出された。

最後に今後フォローすべき問題として、地元の治水、余野川の治水、地元の地域活性化、森林の伐採や土砂の堆積など関連事業で環境を破壊した現状の回復、導水トンネルなどなどの処理問題が提起された。

他のダムを含めて、ダム建設を当面実施せずの場合、流域委員会のアフターケアーのあり方に関して、定めるべきであると思われた。（文責　村上興正）

村上興正委員

住民と委員との意見交換会（余野川ダム）

日　時：平成 17 年 8 月 18 日（木）15:00～18:30
場　所：池田市民文化会館　２階　コンベンションルーム
出席者：進行役　　村上(興正)委員、谷内委員
　　意見発表者　酒井精治氏、増田京子氏
　　代表委員　　池淵委員・澤井委員・高田委員

意見交換会の結果概要
余野川ダム建設に関して、以下のような意見があった。

止々呂美地区住民の意見：地域住民は、余野川ダムの建設計画について当初は宅地開発に支障が生じることを懸念して反対であったが、その当時の箕面市長より、余野川ダム建設による流域の治水・利水向上への理解を求められるとともに、余野川ダム建設に結びつけた国土交通省の地域活性化案の提示による説得をうけた。地域住民としては、治水･利水の公共性に理解を示すとともに、地域の発展を考えやむなく余野川ダム建設を認めることにした経緯がある。ダムができると言うことであったが、地元では何度も被災しているのにその対策は後回しになり、27 年にわたり地元が犠牲になってきた。それにも拘わらず、6 月 30 日に、国土交通省からダムを当面実施しないという一方的な通告があり、それに対して悲しみと不信感をいだいた。撤回して、ダム建設を再開してほしい。

これに対する意見としては、地元住民の方が言われることはもっともな点がある。しかし、大阪府の太田知事が述べているように公共事業の見直しは時代の趨勢であり、ダム建設の見直しはやむを得ない面がある。人命や財産を守るのはダムだけではなく、河川行政全体を変えないといけない、との主旨の発言。また、流域委員会は、答申を行うに当たり、民主的なしくみを保障したと評価しているが、地元の方との話し合いは、まだ不十分だったと指摘された。

総合討論を含めて論議された主な問題は、流域委員会のあり方に関してで、従来の取り組みに関しては、淀川流域委員会のメンバーは余野川ダム予定地の現場を見たのか、実態を知った上で意見を述べているのか。また、地元住民の意見を聞いたことがあるのか、止々呂美地区の意見を述べるのはこれが初めてであり、感謝はするが遅すぎるのではないか、などなどである。

以上の意見に対して、流域委員会は現場の視察を度々行い、地元住民との話し合いもできる範囲で行ってきたことを説明。しかし、これに対しては、従来の結果を見る限り、住民の意見の反映は極めて不十分であり、何の目的で委員会が話し合いを行うのかは疑問である。という厳しい意見が続出した。

また今後のことに関しては、このような形で意見を聞き置くだけに終われば意味がない。地元の事情を聞いた上でそれを反映させた形で意志決定すべきである。として、国土交通省に対して住民の意見を踏まえて答申を提出して欲しいという意見が出された。

最後に今後フォローすべき問題として、地元の治水、余野川の治水、地元の地域活性化、森林の伐採や土砂の堆積など関連事業で環境を破壊した現状の回復、導水トンネルなどなどの処理問題が提起された。

他のダムを含めて、ダム建設を当面実施せずの場合、流域委員会のアフターケアーのあり方に関して、定めるべきであると思われた。（文責　村上興正）